

まちの姿6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち

市民が生涯を通じて学び、芸術文化活動やスポーツ活動を始めとする様々な活動に親しむことで、生活に生きがいやゆとりを持ち、心の豊かさを実感できることが大切です。

そのため、生涯を通じて学ぶことができるよう、自主的な活動の機会や居場所の充実を図るとともに、狛江ならではの芸術文化の更なる醸成に向けた取組等を行っていきます。また、年齢や障がいを問わず、スポーツをいつでも気軽に楽しむことができる機会づくりについて、団体や事業者、行政が連携して取り組み、市民が心身共に健やかな生活を送ることができる環境を整えることで、「**生涯を通じて学べるまち**」を目指します。

さらに、市内に数多くある古墳や史跡等の狛江の歴史について、市民が身近に触れ、親しむことができる環境づくりや次世代に継承する取組を行う等、狛江への愛着や誇りを持つような「**歴史が身近に感じられるまち**」を目指します。

1 人権が尊重され、市民が主役となるまち

2 安心して暮らせる安全なまち

3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち

4 子どもがのびのびと育つまち

5 いつまでも健やかに暮らせるまち

6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち

7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち

8 持続可能な自治体経営

施策6-① 地域における学びの充実

- 方向性1 学びの環境づくり
- 方向性2 生涯を通じた学びの実現
- 方向性3 学びを活かす機会の充実

施策6-② 芸術文化・スポーツの振興

- 方向性1 芸術文化に触れる機会の充実
- 方向性2 芸術文化活動の推進
- 方向性3 スポーツへの参加機会の充実
- 方向性4 ライフステージに応じたスポーツの推進

施策6-③ 歴史への理解と継承

- 方向性1 歴史の継承と文化財の保存
- 方向性2 文化財の活用の推進

施策6－① 地域における学びの充実

目指す姿

誰もが生涯を通じて学ぶことができるよう、自主的な活動の機会や場、情報の充実が図られ、それぞれが豊かな心をもって地域の中で学ぶことができます。

施策体系

6 生涯を通じて学び、
歴史が身近に感じられるまち

施策6－① 地域における学びの 充実

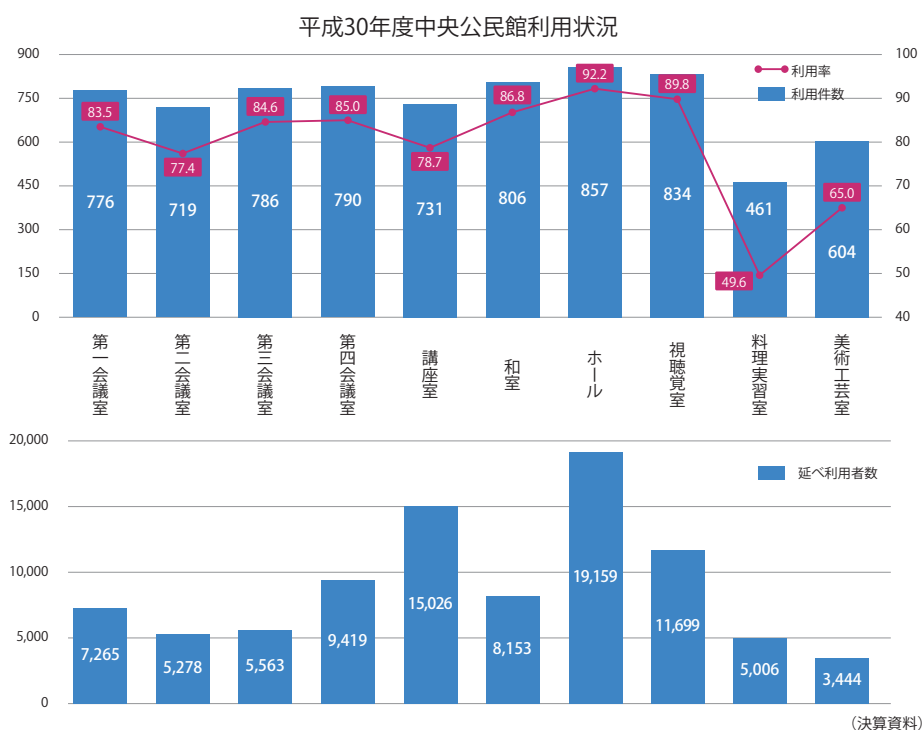
- 方向性1 学びの環境づくり
- 方向性2 生涯を通じた学びの実現
- 方向性3 学びを活かす機会の充実

施策指標

	指標名	指標の説明	現状値 (平成30(2018)年度)	目標値 (令和6(2024)年度)
1	公民館利用者数 (人)	中央公民館と西河原公民館の延べ利用者数	150,316	170,000
2	図書館の利用率 (%)	図書館の利用率	16.0	20.0
3	昨年1年間に学びの活動・体験をした市民の割合(%)	◆市民アンケート	24.4	29.0

■ 施策の現状と課題

- 市民センター(中央公民館・図書館)について、施設の老朽化が進んでいることや、市民の学びや居場所の拠点となるよう、今後のあり方等について検討が必要です。また、公民館のフリースペースの拡大やインターネット環境の整備を行ったことにより、利用者の裾野の拡大を図りましたが、市民センターが市民の居場所となるよう、他施設等との連携も含めて子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい環境の整備が求められています。
- 公民館では様々な年代に向けた多彩なプログラムを提供していますが、一方で、受講する市民の高齢化や固定化が進んでいます。若年層は、地域の中で学ぶことや、地域と交わる機会が比較的少ないため、若年層向けの学習機会の提供により公民館を身近に感じてもらうことで、受講者の裾野を広げ、公民館が地域の課題解決や仲間づくりの場、居場所や社会教育活動の相談の場として機能することが求められています。
- 図書館については、利用者から蔵書数が少ない、閲覧できる場所が少ない、自習室がない等の意見があり、公民館と同様に地域の課題解決や学びの拠点として機能することや、図書館利用率の向上のためにアウトリーチの視点を含めて取り組むことが求められています。
- 生涯学習団体の更なる活性化及び生涯学習の更なる推進を目的として、市内の生涯学習団体をまとめた冊子やその電子版を作成していますが、多様化する市民の学習ニーズに応えるため、学ぶ機会の提供や必要な情報発信、学びを通じた交流による仲間づくり、関係機関等と連携した学びの支援等を行っていく必要があります。また、市民の学びの成果の活用や地域への還元等、学びの循環のための仕組みづくりが求められています。



■ 施策の方向性

★方向性1 学びの環境づくり

- 市民の地域での学びや居場所づくり、市民同士の交流等を促進するため、今後の市民センターのあり方について様々な市民からの意見を踏まえて検討していきます。また、公民館や図書館等が地域での学びや居場所を支える場となるよう、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい環境づくりに努めます。
- 地域における団体や学校等を含めた関連施設等が連携し、一人ひとりが地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。

方向性2 生涯を通じた学びの実現

- 市民の学びや活動の多様なニーズを把握し、各種講座を開催する等、関係機関等との連携により計画的に学びを支援していき、ライフステージに応じて誰もが地域の中で自分らしく学び、世代を超えた交流を通じた仲間づくりや活動ができる機会の充実を図ります。図書館においては、市民の学びと情報の拠点として、利用率や利便性の向上を図ることで地域での学びや社会参加を支援し、また、子どもが幼い頃から読書に親しむ機会の充実を図ります。
- 各種団体や大学、事業者等と連携し、学習・活動の場の確保を推進するとともに、地域で活動している団体等の情報を効果的に発信していくことで、市民の学びを支援します。



中央公民館のつどい

方向性3 学びを活かす機会の充実

- 市民の学びの成果を、地域における課題の解決等、市民が自主的・自発的に地域のために活用していけるよう、市民協働や市民活動支援センター(こまえくぼ1234)を軸とした関係団体等との連携も含めて、次世代を担う人材の育成・発掘や学びからつながるネットワーク等の支援を行います。



中央図書館

■ 関連する主な個別計画

計画名	計画期間
第三次粕江市子ども読書活動推進計画	平成29～令和3年度
第3期粕江市教育振興基本計画(粕江市教育大綱)	令和2～6年度
粕江市公共施設整備計画	令和2～11年度

■ 小・中学生のアイデア



- 集中できる個室があって、辞書があって、明るいところがあるといい。
- 仕切りがある落ち着いた自習室だけの場所を設ける。

施策6-② 芸術文化・スポーツの振興

目指す姿

一人ひとりが自分らしいスタイルで芸術文化・スポーツ等をいつでも気軽に楽しむことができ、心身ともに健やかな生活を送ることができています。

施策体系

6 生涯を通じて学び、
歴史が身近に感じられるまち

施策6-② 芸術文化・スポーツの振興

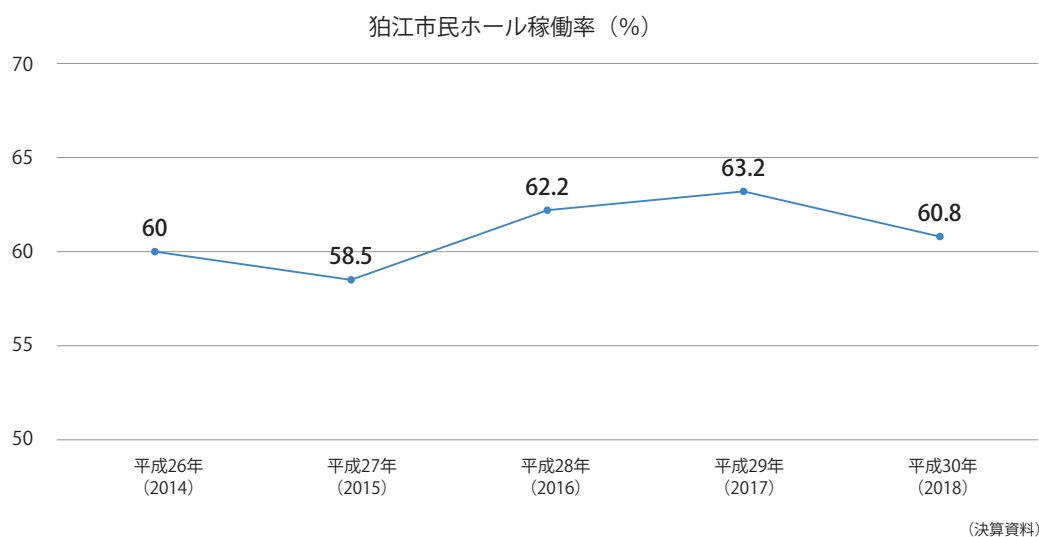
- 方向性1 芸術文化に触れる機会の充実
- 方向性2 芸術文化活動の推進
- 方向性3 スポーツへの参加機会の充実
- 方向性4 ライフステージに応じたスポーツの推進

施策指標

	指標名	指標の説明	現状値 (平成30(2018)年度)	目標値 (令和6(2024)年度)
1	昨年1年間に芸術文化活動を行ったり、鑑賞したりしたことがある市民の割合(%)	◆市民アンケート	43.0	47.0
2	週1回以上、何らかの運動やスポーツをしている市民の割合(%)	◆市民アンケート	60.1	70.0

■ 施策の現状と課題

- 音楽事業については、駅前ライブのほか、近年は大規模な事業を開催しており、絵手紙事業については、絵手紙ひろばや小中学校への講師派遣を行う等、市民が身近に芸術文化に触れることができる機会の提供に努めています。一方で、市民アンケートによると、芸術文化活動に触れる機会がある市民の割合は、近年は横ばい傾向にあります。そのため、市民の生きがいづくりや豊かな心の育成、芸術文化の振興を図るため、より一層の取組が求められます。
- 粕江の特色ある地域文化の醸成に向けて、音楽や絵手紙等の様々な事業を行っており、市内だけでなく近隣の自治体からも参加していただいています。このような音楽や絵手紙をはじめとした粕江の文化を次の世代へと継承させていくためには、新たな世代への働きかけや工夫が必要です。また、そのためには、芸術文化活動に関わる人材・団体の育成や活躍の場の提供等についても推進していく必要があります。
- 市民アンケートによると、週1回以上の頻度でスポーツ活動をしている市民の割合は、近年は微増傾向にあります。また、平成31(2019)年度にラグビーワールドカップ2019が開催され、令和2(2020)年度には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、市民のスポーツに対する関心も一層高まっていくことが期待されます。これらを契機に、スポーツに気軽に触れる機会の提供から競技能力の向上まで、それぞれの目的に応じた取組を支援していく必要があります。また、スポーツを身近に感じていない人に対してスポーツに親しむきっかけづくりを行うに当たっては、単なるスポーツの促進だけではなく、仲間づくりという視点等にも着目して検討していく必要があります。



■ 施策の方向性

方向性1 芸術文化に触れる機会の充実

- 学校や関係機関と連携し、子どもから高齢者まで多くの市民が芸術文化に身近に触れることができる機会の提供や、積極的な情報発信を行います。

★方向性2 芸術文化活動の推進

- 地域での多様な芸術文化活動を支えるとともに、芸術文化活動に関わる人材・団体の育成や活躍の場の提供、芸術文化活動を通じた生きがいづくり等を推進していきます。
- 音楽や絵手紙等の狛江らしい芸術文化活動を促進していくとともに、市民ホールの指定管理者とも連携し、ホールの活用や事業の充実を進めていきます。また、芸術文化活動の拠点として、市民ホールの計画的な改修等を行います。



絵手紙を描いている様子

方向性3 スポーツへの参加機会の充実

- 誰もがスポーツに気軽に参加できる取組を行っていくことで、スポーツを身近に感じ、スポーツを楽しむきっかけづくりを行います。また、関係団体と連携し、各種事業の積極的な情報発信を行うとともに、地域で活動するスポーツ団体の紹介等を行うことで、スポーツ活動への興味関心を高め、参加と仲間づくりを促進します。

方向性4 ライフステージに応じたスポーツの推進

- ライフステージに応じて、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるよう、障がい者スポーツを含めた生涯スポーツの推進を図り、体力の向上や生きがいづくりにつなげます。
- 競技力向上に向けて、個人や団体の育成、スポーツ指導者の資質向上を図ります。また、様々な年代による多様なスポーツ活動を支える拠点として、体育施設の計画的な改修等を行います。

■ 関連する主な個別計画

計画名	計画期間
「音楽の街－狛江」構想	平成19年度～
狛江市スポーツ推進計画	平成28～令和2年度
第3期狛江市教育振興基本計画(狛江市教育大綱)	令和2～6年度
狛江市公共施設整備計画	令和2～11年度

■ 小・中学生のアイデア



- 狛江駅前の公園で「のどじまん」のように、アーティストだけでなく、ご老人や一般の人もステージで歌う。競うのではなく、歌を楽しんでもらうのはどうでしょうか。
- ボール遊びができる公園を増やす。
- 市民グラウンドを改修し、芝生をつくり、観客席をつくって野球、陸上、サッカーなど様々なスポーツの試合をしてスポーツ人気を高める。

施策6－③ 歴史への理解と継承

目指す姿

市内に数多くある古墳や史跡等、狛江の歴史の中で生まれ残されてきた様々な文化財に市民が身近に触れ、親しむことで、狛江への関心と愛着が生まれ、狛江の歴史と文化が次世代に継承されています。

施策体系

6 生涯を通じて学び、
歴史が身近に感じられるまち

施策6－③ 歴史への理解と継承

方向性1 歴史の継承と文化財の
保存

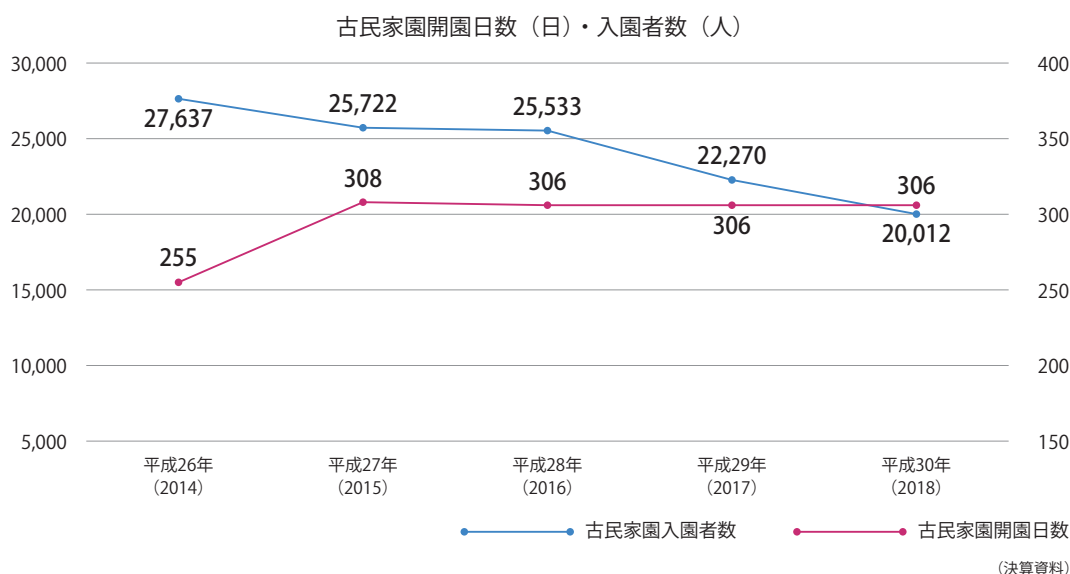
方向性2 文化財の活用の推進

施策指標

	指標名	指標の説明	現状値 (平成30(2018)年度)	目標値 (令和6(2024)年度)
1	市の歴史や伝統に関心のある市民の割合(%)	◆市民アンケート	51.5	57.0

■ 施策の現状と課題

- 市民一人ひとりの狛江への理解や愛着の形成により市民の生きがいや狛江の文化の発展を図るため、狛江の歴史を次世代に継承していく必要があります。狛江の歴史に身近に触れることができるよう、市史編さんにおいて集積した資料や、遺跡の発掘調査の出土遺物、寄贈された民具類等、歴史的資料を良好な状態で保管・収蔵しつつ、それらを市民に還元するために活用できる展示・収蔵施設の確保についての検討や適切な情報発信を行っていく必要があります。
- 猪方小川塚古墳や亀塚古墳の保存整備工事を行い、歴史公園の開園に向けた準備を進めているほか、市指定文化財等の説明板の新設・更新を行っています。また、狛江市は、遺跡や古墳が多いまちであり、発掘調査で出土した書物や寄贈を受けた民具については、小学校への出前講座や古民家園での体験学習等で活用する等、子どもが実物の資料に触れる機会を提供していますが、狛江の歴史を継承していくためには、市民への更なる周知や活用方法について検討していく必要があります。
- 狛江に残された文化財等を広く周知していくための取組として、古民家園や歴史公園を核とした散策のための文化財マップを平成31(2019)年度に作成しました。また、古民家園については、必要な施設の維持管理・修繕を進めるとともに、市内に点在する歴史的な有形無形の資源を活用した講座・教室の充実に向けて適宜検討を行っていますが、市民にとって身近に狛江の歴史を親しむことができる場所として、更なる事業展開を検討する必要があります。



■ 施策の方向性

★方向性1 歴史の継承と文化財の保存

- 関係機関等と連携し、幼少期等の早期から狛江に残された文化財や伝統的な文化に触れる機会を提供することで、狛江の歴史を身近に感じ、狛江への愛着や歴史に関心を持つきっかけづくりを行います。また、歴史を次世代に継承するための人材の確保を図ります。
- 市民が身近に狛江の歴史に触れ、親しむことができるとともに、後世に継承されていくよう、狛江の歴史や文化財等を分かりやすく公開していくほか、効果的な情報発信を行っていきます。また、文化財等を適切に保存・継承しつつ、効果的に活用できるような保管・展示場所の確保について、具体的検討を進めます。

方向性2 文化財の活用の推進

- 猪方小川塚古墳等、順次整備していく歴史公園について、他の文化財とともに効果的に活用するための方策を検討し、子どもから高齢者まで誰もが狛江の歴史を身近に感じることができるような取組を行います。
- 古民家園については、地域に密着した施設として歴史を身近に親しんでもらうため、市内に点在する有形無形の文化財や史跡の活用等を含めて、体験学習や魅力を伝える場所として活用していくとともに、長期的な視点に立った施設整備や管理を行っていきます。



古民家園



文化財めぐりの様子

■ 関連する主な個別計画

計画名	計画期間
第3期狛江市教育振興基本計画(狛江市教育大綱)	令和2～6年度
狛江市公共施設整備計画	令和2～11年度